

セッション8

養護教諭が行なう家族支援 — 家族支援システムアプローチを用いて —

津島ひろ江¹⁾、藤本比登美²⁾、梶原京子³⁾

1) 川崎医療福祉大学医療福祉学研究科、2) 広島大学歯学部口腔保健学科、
3) 福山平成大学福祉健康学部

近年、小・中・高等学校においては、生活習慣の乱れ、虐待、いじめ、不登校、ひきこもり、性の逸脱行為、校内外の暴力行為などの増加や深刻化がみられ、さらに社会での家族観の背景にして、学校では組織的な活動を行なっているが、解決には難しい現状を抱えている。

養護教諭は、保健室において担任や家族と連携しながら、一人ひとりの子どもに向かい合い問題解決の方向を探っている。

しばしば子どもの諸問題が家族の接し方ひとつで、より良い変化をすることもあればさらに深刻化することを体験している。即ち、これらの課題の多くを、子どものみに関わるだけでなく、家族へも働きかける必要性があることを養護教諭は日頃より痛感している。

そこで、本学会で初めて「養護教諭が行なう家族支援」をテーマにしてセッションを設けた。今回のセッションでは、養護教諭が日ごろ関わっている事例から、下記の4点を中心に研修する。

1. 事例紹介 (養護教諭の実践事例)
2. 養護教諭が行なう家族支援のためのアセスメントのあり方
3. 養護教諭が行なう家族支援アプローチの進め方
4. 学校管理体制の中での支援